

学習成果

学習成果		学 習 内 容
4 つ の 学 習 成 果	学習成果Ⅰ	白梅を象徴とした建学の精神から導き出される忍耐と進取の気概、初志貫徹の精神を基盤に、保育者としてふさわしい教養と品位を学内外の学習を通して身につけている。
	学習成果Ⅱ	保育者としての適切な知見・判断力、コミュニケーション能力を備え、多様な子どもの心に寄り添える保育能力を学内外の学習を通して身につけている。
	学習成果Ⅲ	保育の専門的知識・技能を学内外の学習を通して獲得し、保育の現場(保育所、幼稚園、施設)での実践力を身につけている。

学習成果の査定内容と査定項目

学習成果	査定内容	査定項目
学習成果Ⅰ	保育者としてふさわしい社会人としての教養、マナー及び意欲、態度、協調性等	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人としての教養・マナー・ルール ・意欲、積極性及び協調性 ・倫理観
学習成果Ⅱ	保育における子どもとのかかわりにおいて、多様な子どもの理解、子どもの心への寄り添い等	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な子どもの理解 ・保育の理解(健康・安全・公平性) ・子どもへの寄り添い
学習成果Ⅲ	保育における施設・業務の知識及び保育技能・実践力等	<ul style="list-style-type: none"> ・保育施設・業務内容の理解 ・保育知識・技能 ・文章力

各科目の到達目標で表示されている学習成果①から⑨は、以下の通りです。

学習成果Ⅰ	①	社会人としての教養・マナー・ルール
	②	意欲、積極性及び協調性
	③	倫理観
学習成果Ⅱ	④	多様な子どもの理解
	⑤	保育の理解(健康・安全・公平性)
	⑥	子どもへの寄り添い
学習成果Ⅲ	⑦	保育施設・業務内容の理解
	⑧	保育知識・技能
	⑨	文章力(記述力)

準備学習・事後学習

講義：1コマの授業につき、4時間の準備学習・事後学習を要する。

演習：1コマの授業につき、1時間の準備学習・事後学習を要する。

実習：1日8時間の実習につき、1時間の準備学習・事後学習を要する。

教育目標等

教育目標

本学は建学の精神を「白梅」に託し、百花にさきがけて花開き、やがて立派な実を結ぶ白梅の花実両全の姿に象徴される人間像を理想としている。保育科においては建学の精神を身につけ、保育現場の要請に十分応えうる資質と能力を持つ保育者を養成することを教育目標とする。

教育方針

教育目標を達成するために次の方針のもとに取り組む。

- (1) 授業やセミナー等を通して建学の精神を深く理解させ、体得させる。
- (2) 「身だしなみ」や「礼儀作法」等保育者にふさわしい常識を身につけさせる。
- (3) 授業を通して保育とは何かを教授し、保育の本質と原理を理解させる。
- (4) 授業や実習を通して子どもの心と身体の発達を理解し、子どもと適切に関わる態度を形成させる。
- (5) 授業を通して保育技能（音楽、造形、身体表現等）を習得・習熟させる。
- (6) 実習指導と実習を通して、保育者としての実践力を養う。
- (7) 資格取得を実現させ、常に向上心を持ち続ける保育者を養成する。

教育上の努力点

- (1) 学生が自ら学び、自ら習得する学習態度を形成するために教授方法を工夫するとともに、保育現場につながる実践的な授業内容を構築する。
- (2) 子どもをとりまく今日的なニーズに対応する授業内容となるよう努める。
- (3) 学生に、子どもに対する関心や、子ども文化および保育への興味を喚起させるために、様々な機会を設け、話題や資料を提供する。
- (4) 保育に必要な技能（音楽、造形、身体表現等）を学ぶ機会を増やす。なお、学生の特性に応じて、自分の得意とする技能を一層伸ばすように指導する。
- (5) 実習の成果を図るために事前・事後の指導に力を入れるとともに、実習生としての「身だしなみ」や「礼儀作法」等を心得させるための指導を日常的に行う。
- (6) 取得した資格を生かした就職の実現のために、一人ひとりの学生に対し、きめ細かい指導を行う。